



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース73号

海苔の生育観察 今年度の海苔生育の報告

浜辺での海苔生育観察について今年度の様子をご報告します。

【網張り】

大森ふるさとの浜辺公園(以下、ふる浜)にて、海苔網を張る作業「網張り」を行いました。12月14日、木更津で種付けしてもらった網をふる浜に出し、「とっくり結び」という結び方で支柱に固定しました。その後、しばらくは網が海面から出ないように、海面から60cmの深さで調節し、海苔の生長を待ちました。この段階の海苔はまだ弱いので、乾燥によるダメージを防ぐためです。



12月14日 網張り

【展開と防鳥ネット設置】

12月24日、そこから海苔の生長が見られたので、6枚重ねの網を3枚ずつに分ける「展開」という作業を行いました。網が重なっていると波によって網がこすれ、せっかく伸びた海苔がちぎれてしまうからです。



12月26日 3~4mm

さらにその後、鳥に食べられないように海苔網の上部に防鳥ネットを取り付けました。

【伸びては、短くなり…】

年末から年明けにかけて海苔の生長は良く、1月9日には平均3~4cm程、長いところで9cm程にまで伸びました。しかし、3日後には1cm程に短くなり、葉の数も減っていききました…。その後も生長が見られず、網の高さが良くないかもしれないということで、1月27日、陸側の南1区画分の海苔網を高さ0cmから150cmまでの傾斜をつけて張り、どの高さが一番よく海苔が生長するのか試してみることにしました。



1月9日 30~40mm

2月7日、網の海苔が再び伸び始め、3~4cm程になっていました。1月後半は天候がぐずついていたのですが、2月に入り安定した晴れの日が続いたためだと考えられます。が、11日には3~5mm程に短くなっていました。もしや、防鳥ネットをすり抜けて食べられているのでは?ということで、12日、試しに沖側の南1区画分の海苔網の下にも防鳥ネット取り付け、上下で挟んでみることにしました。2日後、その区画周辺の海苔が1cm程度になりました。斜めに張った網では80cm前後の高さの海苔が1~2

cm程度の長さになりました。18日、長いところで2cm程にはなりませんが、全体的にはあまり生長はしていないようです。



2月12日 下にも防鳥ネットを設置 【竹ヒビの海苔】

竹ヒビの海苔は今年も二次芽が付着し、1月30日に生長しているところを発見しました!昨年と比べ今年は数が増え、20カ所ほど確認できました。大きいところでは10cm以上の海苔も複数ありました。竹ヒビの高さを見てみると、海底から約10cm~40cmあたりに集中して海苔が生えていました。



2月2日 竹ヒビの海苔 【今年度の成果から…】

今年も収穫までは至りませんでしたが、晴天が続き日射量が高ければ、ふる浜でも海苔が生長できるということがわかりました。網の高さは80cmあたりが良く伸び、竹ヒビでは海底から10cm~40cmあたりに海苔が良く付くことがわかりました。この結果は来シーズンの作業に活かし、海苔の収穫を目指します。

また、浜での作業中、たくさんの方々にお声掛けいただき、応援してくださいました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。かつて大田区の花見で見た海苔養殖風景の再現を通して、浜を訪れる皆様に海苔の魅力がもっと伝わるように今後も取り組んでいきたいと思ひます。

(滝本)



2月8日、元海苔生産者やはまどの会、学生ボランティアの方々と共に、海苔網の生育状況の見学を行いました。

この活動は多くの方々にご協力をいただき、小学校の授業や浜辺の景観づくり、ボランティアの学習などに活用しています。この様子は、どなたでも浜辺からご覧いただけます。

元海苔生産者の想い出

海苔つけ体験などの指導をしていただいている協力者の方々からこれまでに伺った、想い出や海苔の作業などのお話をご紹介します。今回は、作業の時の服装についてお聞きしたお話をまとめました。

■鳴島光吉さん(昭和5年生まれ)

作業の時は手甲をしていましたが、後にコハゼが付いたコテッポができました。コハゼがあると袖が邪魔になりません。夏は単衣のコテッポを着ました。

冬の海の作業では、コテッポ、ポータ、ドテラ（綿入れの長着）などそれぞれ違う格好でした。コテッポは上にチャンチャンコを羽織ります。綿が入っているの尻も暖かくてよかったです。

ポータは女たちが一針一針刺してつくりました。自分はシヤのおばあちゃんにこしらえてもらいました。風を通さないけど前が開いてしまうので寒く、下にはセーターを着ました。海苔を採る時に袖を肘上までまくりやすいように、セーターの袖をボタンで取り外せるように作ってもらいました。コテッポもポータも袖だけは薄手にできているのはそのためです。



ポータ



夏、被布仕立てのコテッポ姿で作業
撮影：日高勝彦氏



コハゼ

海苔船が普及する前（親の世代より上）は、ドテラを着てベカブネで海に出

ました。ベカブネは立ってこぐので、長くても邪魔ではありません。

かつてはみな禪に股引ですが、下着がパンツに代わるとともにズボンをはくようになりました。昭和生まれの人はほとんどがズボンをはきました。股引はあつらえもの（手縫い）、ズボンはツルシンボ（既製品）でした。ダブル仕立ての刺子は高いけど暖かかったです。

■須山一雄さん(昭和7年生まれ)

冬の浜の作業はポータと股引を着ました。お祖父さんはドテラ、大お祖父ちゃん（曾祖父）は拾（着物）にドテラを着て作業していました。

自分たちのころは、ズボンをはくようになりました。縦縞のコールテンのズボンで暖かかったです。

■中村博さん(昭和10年生まれ)

ドテラも股引も着ませんでした。夏はワイシャツにズボン、冬はポータと毛糸のとっくりセーターも着ました。顔にはフランネルのほっかむりをしました。海は寒いから、タオルや手ぬぐいでは寒く、ネル生地は暖かくて貴重でした。外れやすいので、筒状にして目だけ出すようにして被りました。刺子はいいものはダブルボタンで暖かかったです。

(五十嵐)



股引

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」73号

令和2年3月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会
会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。